

資料 2

福島第一原子力発電所の敷地境界外に影響を与えるリスク総点検に関わる対応状況

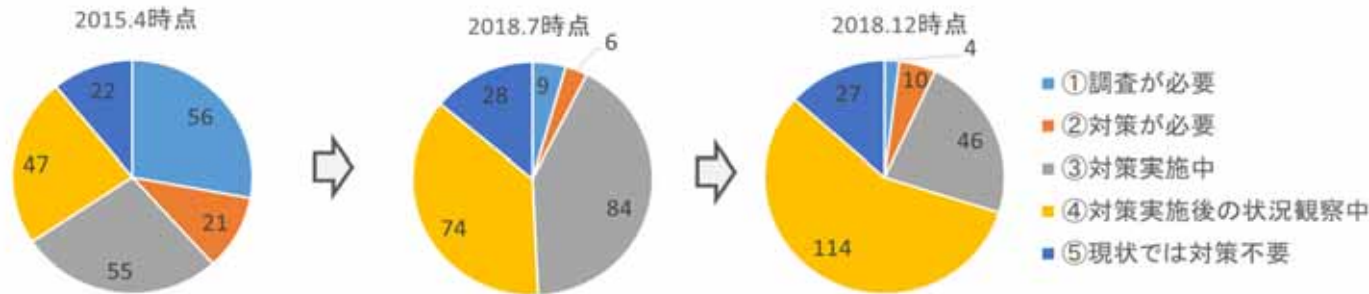
2019年6月3日

The logo for TEPCO (Tokyo Electric Power Company) is displayed in red, bold, uppercase letters.

東京電力ホールディングス株式会社

概要

- 2015年4月、液体及びダストを中心に敷地境界外に影響を与える可能性があるリスクを広く対象としたリスク総点検を実施し、リスク低減対策の取組みは、環境変化等を反映し適宜見直しを行っている。



- 対策実施中の案件のうち、以下の個別件名について状況報告する。
 - No.63 「各瓦礫類一時保管エリア」

| リスク総点検管理番号 | リスク存在箇所 | リスク内容 | 対応概要 | 状況 |
|------------|-------------|---|--|------|
| 63 | 各瓦礫類一時保管エリア | 瓦礫類に付着した放射性物質が、降雨時に瓦礫表面から雨水へ移行し、側溝等（地下浸透含む）を經由して環境へ放出される。 | <ul style="list-style-type: none"> 一時保管エリアCの保管物整理（2016年6月～2018年3月） 一時保管エリアCのシート養生完了（2018年3月～2019年3月） 降雨時のモニタリング開始（2018年5月～） | 対策完了 |

1. 一時保管エリアCのシート養生の進捗状況

一時保管エリアCのシート養生は、3月5日に完了（前回報告）。



写真1 全景



写真2 養生エリア①②
作業完了



写真3 養生エリア③
作業完了



写真4 養生エリア④
作業完了



写真4



写真5-1 土側溝（作業前）

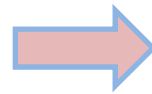


写真5-2 側溝（作業完了）

2-1. モニタリング状況（一時保管エリアC）

- ▶ 低線量ガレキの一時保管エリアCは、2018年3月よりガレキをシートにより養生する工事を開始していたが、2018年5月19日に、集水枡で過去最大の全β濃度（750Bq/L）を確認。6月からは、付近を流れる陳場沢川のサンプリングについても一時保管エリアCと同様降雨時に毎回採水を行うこととした。
- ▶ 9月に海側のエリア1、2のシート養生が完了し、その後は濃度が低下。今年3月に対策が完了し、全β濃度は10Bq/L未満となった。

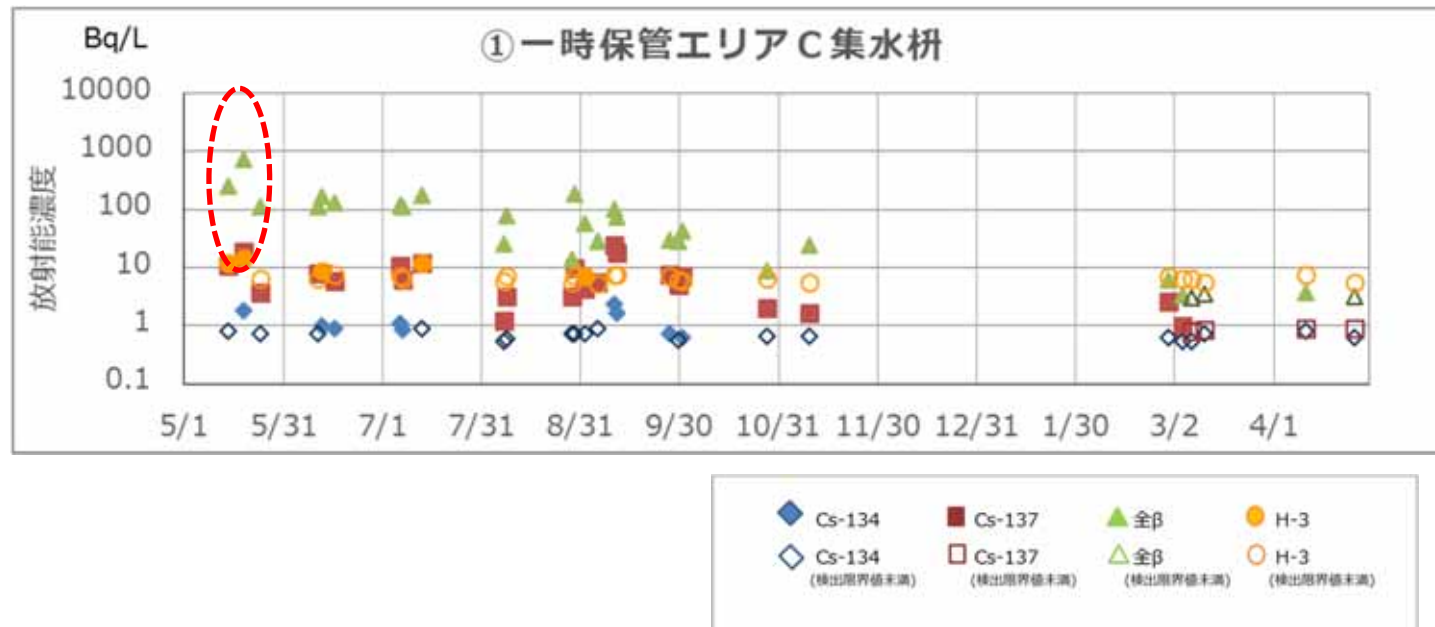


図 ①一時保管エリア集水枡のモニタリング結果

2-2. モニタリング状況（一時保管エリアP）

- ▶低線量ガレキの一時保管エリアPでは、2018年8月の台風時に、排水からCs-137濃度が99Bq/L、全β濃度で360Bq/Lを検出。
- ▶原因を調査したところ、作業中の汚染土壌の養生が不十分で、台風の降雨により一部の土壌が排水路に流入したものと推定。作業中の土壌についても、養生を行うよう作業方法の改善を行い、その後は上昇は見られていない。

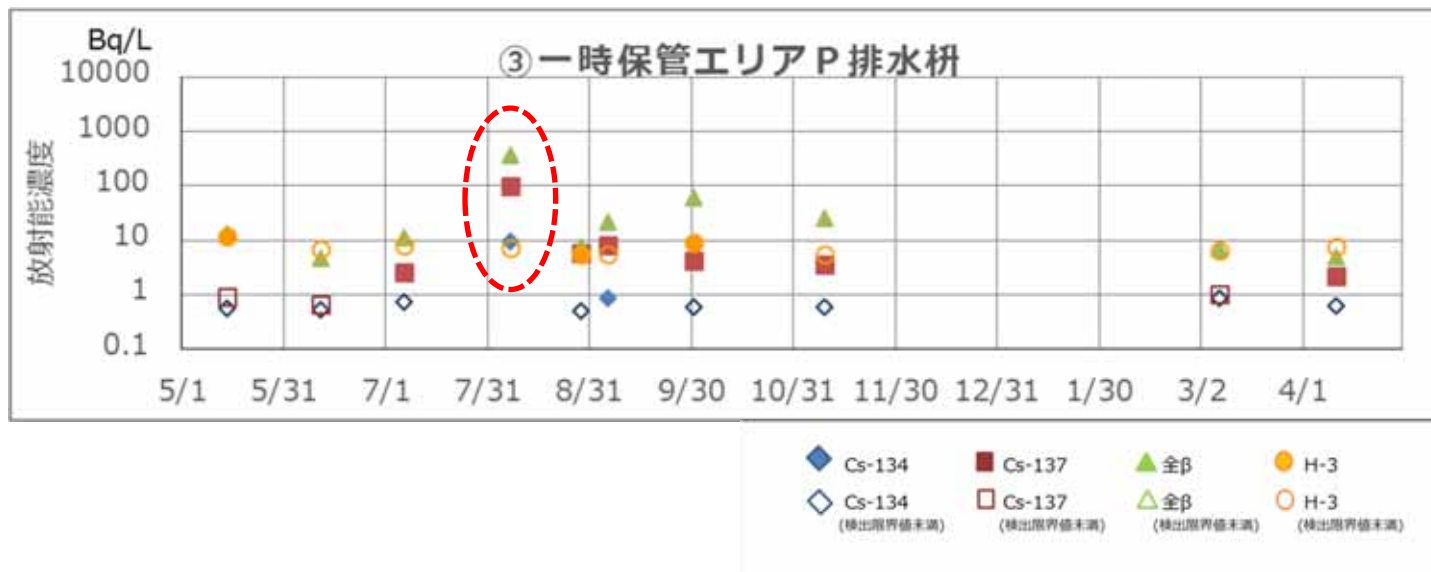


図 ③一時保管エリアP排水枡のモニタリング結果

2-3. モニタリング状況（その他の地点）

▶ その他の地点では、フォールアウトによる汚染土壌の流れこみと見られるセシウムの上昇が見られる場合もあるが、継続的に50Bq/Lを超えるような地点は見られなかった。

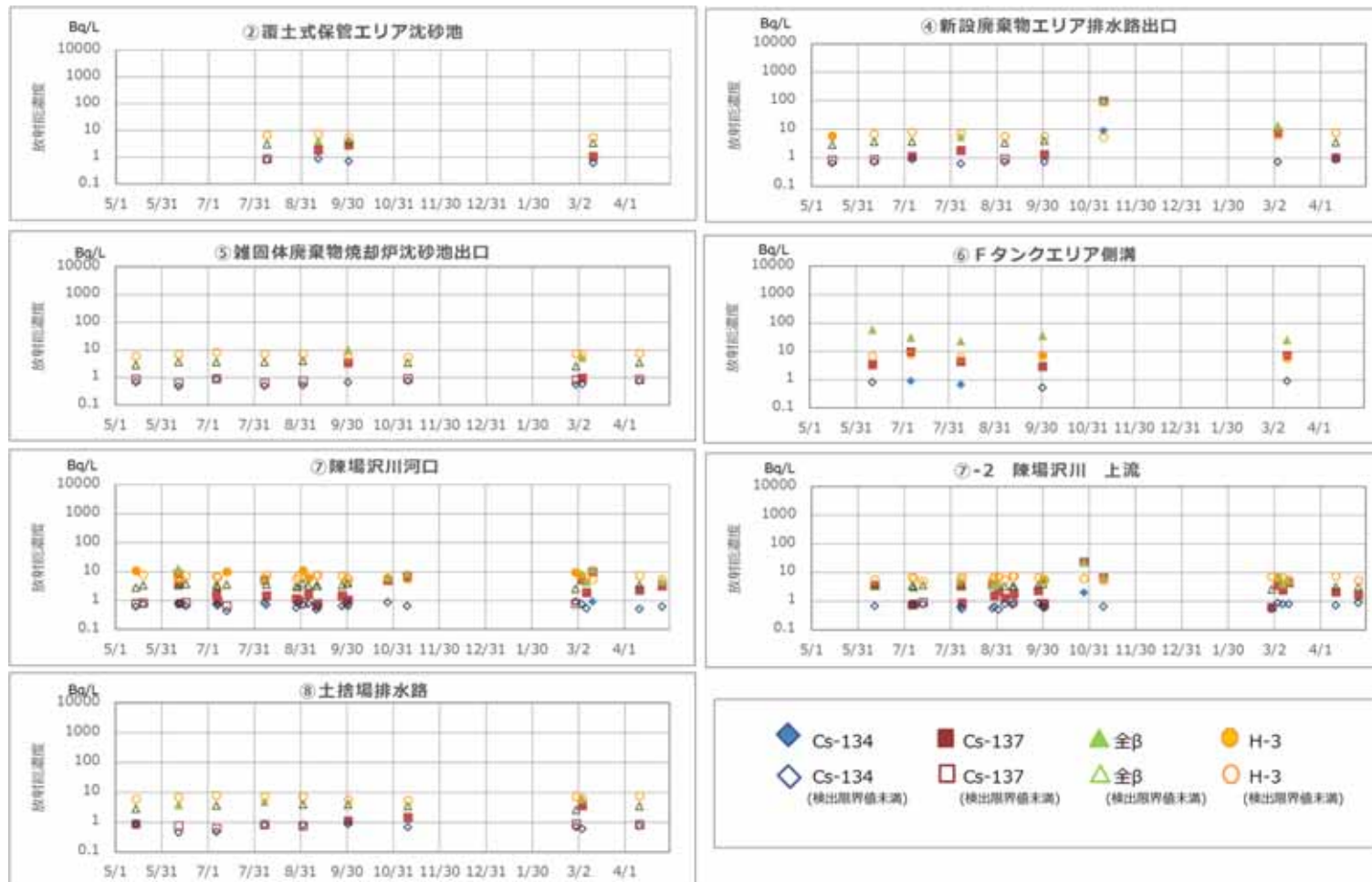


図 その他の地点のモニタリング結果

参考. 敷地北側における雨水排水のモニタリング計画

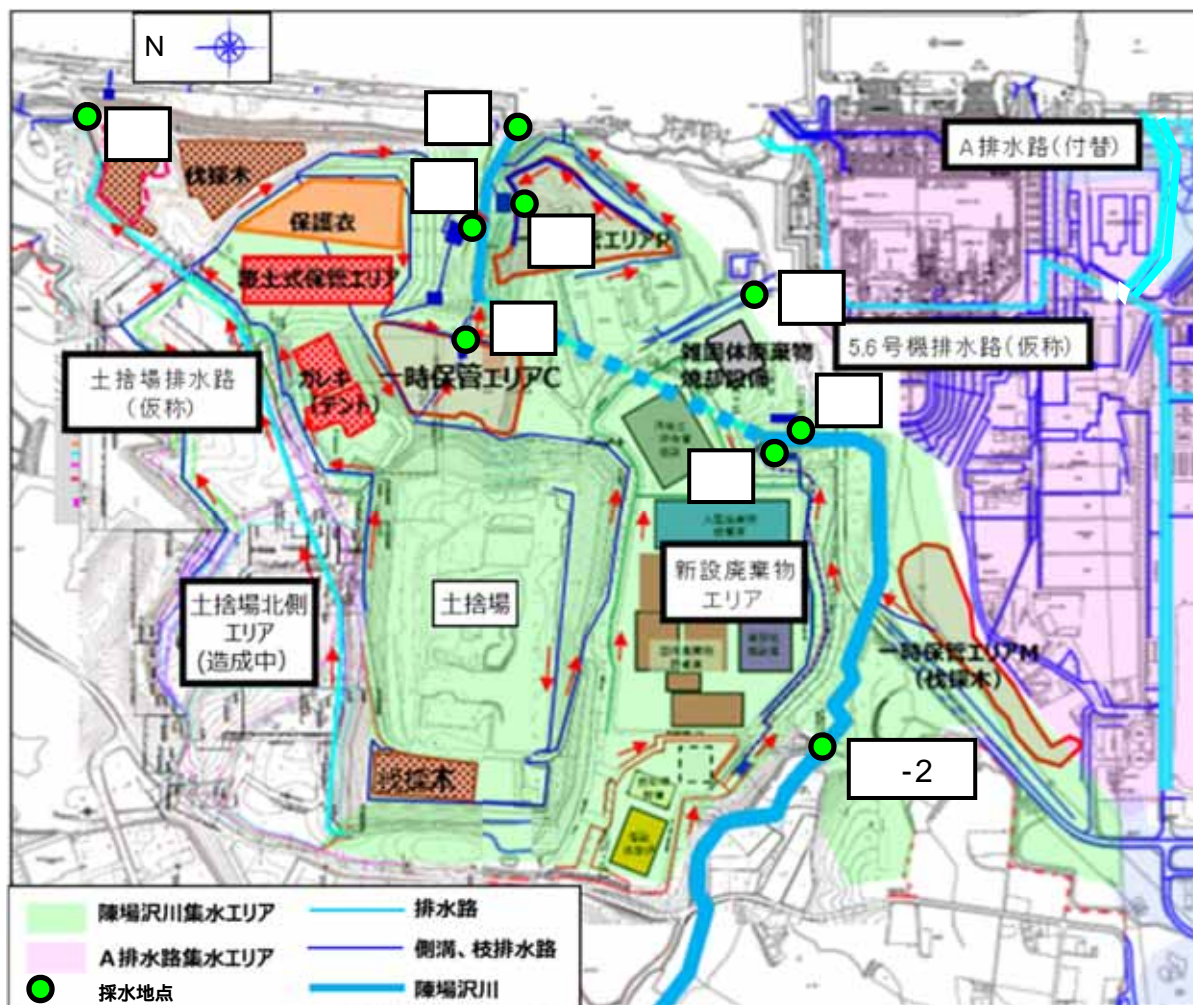


- ◆ 2018年5月14日より、敷地北側エリアで自主的なモニタリングを開始。
- ◆ モニタリングの内容については、施設の設置やモニタリング結果を踏まえて見直しを行う。

■ 分析項目：Cs、全β、H-3

■ 採水場所及び頻度（2018年7月～）

| 採取場所 | 採取頻度 |
|----------------|--------------------------------|
| ①一時保管エリアC集水枡 | 降雨時のみ |
| ⑦陳場沢川河口 | |
| ⑦-2陳場沢川上流 | |
| ②覆土式保管エリア沈砂池 | 1回/月 (降雨が無く採水出来ない場合もある) |
| ③一時保管エリアP排水枡 | |
| ④新設廃棄物エリア沈砂池出口 | |
| ⑤雑固体廃棄物焼却炉 | |
| ⑥Fタンクエリア側溝 | |
| ⑧土捨場排水路（仮称） | |



敷地北側の状況と採水位置図